眠る財宝

じかん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
眠る財宝

【Ｎコード】
Ｎ１２３４ＢＡ

【作者名】
じかん

【あらすじ】
隠れた洞窟には、金銀財宝が眠っていた。更に奥に進むと、興味深いモノが・・・。

「宝の山に入って手を虚しくして帰るとは、まさにこのことだな」
「全く、その通りだ」
男二人はライトを持って、大きくため息をついた。
目の前には黄金の山が聳え立ち、金銀の装飾品が無雑作に積まれているのだ。とても
二人だけでは運び出せる量ではない。
家族、友人、知人を総動員しても運び出すことは容易ではなくて、何日も必要だろ
う。水を飲もうとして何気なく滝に近づいたら滝の裏に洞窟があり、奥に進んだら金銀
財宝が眠っていたのだ。
二人は洞窟の更に奥に進んだが、まだ宝の山は尽きることなく延々と続いている。歩
きながら何か手ごろな物が無いか探したが、大きい物の間に小さい装飾品も転がってい
るので、手に取って細かいものはポケットに入れるかどうか悩んだ。
「どうする？」
「そうだな、どうしようもなさそうだな」
「警察に届けるより他に何かあるか？」
「まあ、警察が一番無難かな・・・」
「国から何パーセントか貰えるんじゃないか？」
「外国の映画で観たことあるけどな」
「俺もあるよ。これだけの量があれば、数パーセントでも相当な金額になるな」
「俺かお前のどちらかがここに残って待つのか？」
「だとすると、お前はどっちがいい。それから、待っていて誰か来たらどうする？」

「他にも誰か来たら厄介だな」
「善意を持った第三者ならいいけどな」
「この財宝の量だと、かえって理性が働くだろうか？」
「個人で扱える限度を超えているのは確かな事実だな」
それからも男二人は、あれこれと可能性を考えた。新聞の見出しも浮かんだ「桁外れの財宝発見」妄想も涌いてきた。いきなり時の人だ。
「おい、折角だから奥の方まで行ってみよう」
「うん。行こう」
二人はライトを照らして洞窟の奥に続いている財宝を辿って行く。財宝は左右に分かれて積まれており、真ん中が通れるようになって歩けるのでそのまま進んだ。既に５０メートルほど財宝の山の真ん中を歩いているが、まだ財宝の道は続いている。それから更に１００メートルぐらい進んだ処で財宝の小路が終わっていた。
「おい、あれは人じゃないか？」
一人の男が云うとライトを照らして促した。
「死体だな」
二人はライトで足元を確認しながら近づくと、軽く呻いた。
「やっぱり、死体だよ」
「白骨化してるな」
云った男は更に周囲にライトの灯りを巡らせた。照らされた辺りには、他にも白骨化した遺体があった。それも一人や二人ではなく数多くの白骨化した遺体があった。時代を感じさせる和服姿の白骨遺体もある。
近くには樽が沢山並んで置いてあり、中には何かが沢山詰まっている。他にも壁に寄りかかり座っている白骨体があり、そして、皆、手にキセルを握っ

ている。
「　最後の一服だったのだろうか」
「うーん、そうだな」
「おい、これ。麻薬じゃないか？」
　男は手を樽の中に入れて、感触を確かめた。それは粘土みたいな黒っぽいような茶色
のようなモノだった。
「麻薬？なんて云う麻薬だ」
「多分なハッシシか、生アヘンだぞ。テレビで見たことがある」
「ちょっと吸ってみるか？」
「警察に捕まるぞ」
「大丈夫だろ。採血か、採尿とかされなければ」
　ちょっと躊躇してキセルを手に取りソレをつめて、ライターで火を点けて吸った。焦
げ臭い匂いが立ち込めて辺りに漂った。そして、激しくむせた。しばらくすると気持ち
が穏やかになり、壁に背中を預けて、顔もほころんだ。それから二人の男はただひたす
らソレを吸って過ごし、財宝のことも含めて全ての思考が曇った。

　———数年後。
「おい、すごいぞ」
「おお」
「宝の山だ」
「半端ではない量だ」
　３人の男は息を呑んだ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1234ba/

眠る財宝

2012年1月3日00時57分発行